

2013
12.14

産婦の身体の声をきく

講師

神奈川県立保健
福祉大学保健福
祉学部
看護学科教授

村上明美先生



勤務部会主催
研修会報告
とわ助産院にて

～身体機能を十分に活用した分娩期のケア～

【主催者より】

毎年、好評をいただいている村上先生の研修会を今年も開催しました。

分娩期の研修は、助産師にとって欠かせないものです。分娩を介助するのは、新人～ベテランまで、その層の厚さは、技の差でもあります。常に学び、常に自己の技の振り返りの連続だと思います。

より安全で母子にとって有意義な時間になるのか、助産師の腕にかかっていると思います。村上先生の講義は、私たちにエビデンスと自己の気づきをより明確な学びへといざなってくれます。「目からうろこ」この言葉は、よく先生の講義後のアンケートから頂く言葉です。少しだけ、内容をご紹介します。

今回のテーマは、産婦の身体の声をきく～身体機能を十分に活用した分娩期のケア～でした。ケアとしての「聞く：予期しないことに気づく・聴く：注意深く観察し、今後の対応を考える・訊く：詳細な情報を尋ねる、または意思を確認する」の意味や、助産師の分娩期のアセスメントの特徴について学びました。自身のあらゆる感性をフル活用して「産婦の身体の声をきく」、研修に来ていただいた方には、明日からのケアの視点がますます冴えた事と確信しています。



来年度研修会予定

*「産科領域の感染管理について学ぶ」

7月予定

*「新人助産師教育と助産師のキャリアパスについて学ぶ」

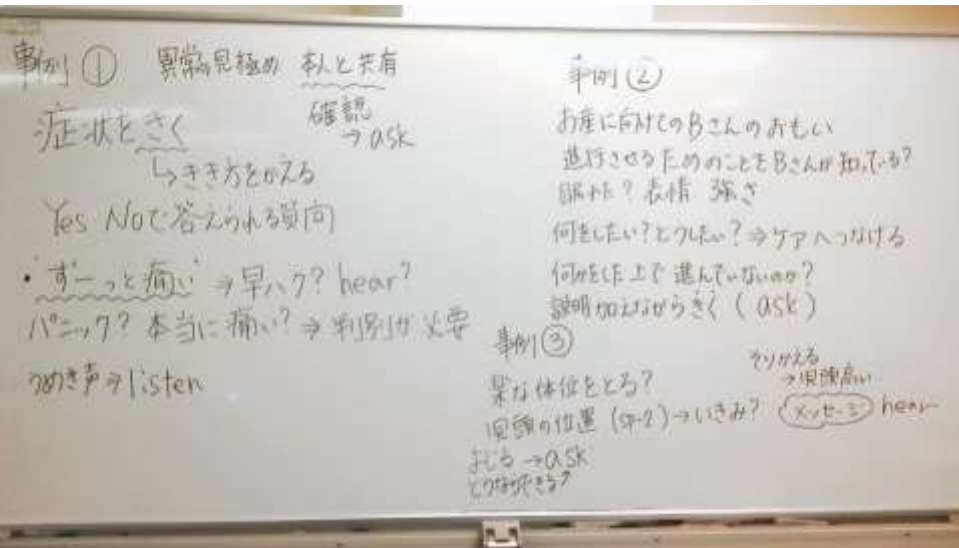
9月予定

*「分娩期のケアと分娩介助について学ぶ」

H27年2月未定

参加者感想

- ・今までは意識していなかった「きく」ということも色々な視点があり根拠もあるのだということを知りました。明日から活用します。
- ・日々の自分のケアを振りかえることが出来る「目からうろこ」がたくさんでした。
- ・普段無意識にアセスメントしていたことを改めて意識することができ「アセスメント」が深まるようになりました。
- ・会陰保護の意味がやっとわかりました。病院にも助産師がいて安心してお産が出来ると言えるように頑張りたいです。



グループワーク症例検討